



幸 せ の 席 沢
特 等 滝





あいさつ

このたび、滝沢市自治基本条例に基づき、滝沢市が「住民自治日本一の市」を目指すための第一歩となる第1次滝沢市総合計画(H27年度～H34年度)を策定いたしました。

第1次滝沢市総合計画は、市民の皆さんの計画として、行政による取り組みだけではなく、市民の皆さんが、いつも幸せを感じながら暮らせるための、「幸福感を育む地域環境づくり」を日常生活の何気ない取り組みを通して進めていくこととしています。

市民相互の「信頼」・「結びつき」・「お互い様の気持ち」(社会関係資本)を築くことが、「幸福感を育む地域環境づくり」の一翼を担い、市民の心を豊かにし、滝沢市に愛着を持つことにもつながることから、本総合計画においては、滝沢市内の様々な人とのつながりを大切にしたい取り組みを進めてまいりたいと思います。

そのためにも、本総合計画の基本的な考えを市民の皆さんに知っていただき、できることから取り組んでいただくためのパンフレットを策定いたしました。

このパンフレットは、中学生以上の市民の皆さんが理解できることを目標として、岩手県立大学の学生さんが考え、中学生や市民と対話して策定したものであります。

発行にあたり、岩手県立大学の学生の皆さんをはじめ、ご協力いただいた多くの方々に感謝するとともに、多くの市民の皆さんが、自分なりの「幸福感を育む地域環境づくり」に、家族や仲間と共に取り組まれることを願っております。

滝沢市長 柳村典秀

序章

H26年度実施の市民アンケートでは、滝沢市の総合計画の認知度は約13%でした。そこで、私たちは市民のみなさんに滝沢市の総合計画を知ってもらい、基本構想を理解してもらうためにこのパンフレットを作製しました。中学生が読んででも分かりやすく、滝沢市にさらに愛着を持ってほしいという想いで作製しました。

市民のみなさんが、滝沢市がめざす住民主体のまちづくりを担うための基本書として、このパンフレットを活用していただければ幸いです。

これからの滝沢市をつくっていくのは、あなたです。さあ、一緒に滝沢市の総合計画基本構想について学んでいきましょう。

目次

- P.2 あいさつ 序章
- P.3 第1章 総合計画とは？
- P.6 第2章 幸福感について
- P.10 第3章 育むことについて
- P.11 第4章 環境づくりについて
- P.13 まとめ 滝沢市がめざすこと
- P.14 幸福実感一覧表

登場人物紹介



チャグまる君

滝沢市が大好きなお馬さん。普段は、市の「商工観光課」という所のお手伝いをしながら滝沢の新しい魅力を探しているらしい。



たがわ 田川コウタ

滝沢で農業を営んでいる家の子。勉強は少し(以上)苦手だけど、元気で好奇心なら人一倍。



きざき 城崎キョウコ

都会から転校してきた女の子。頭が良くスポーツも得意だが、それは普段からコツコツ努力している結果だったりする。



チェックポイント

総合計画のまとめ

市民主体の地域づくりを行い、市民がより住みやすい生活をおくるための基準を明らかにする



市民が安心して暮らせる環境を維持する方針を示す



最終的には市民がめざす滝沢市の姿を実現する!

滝沢市のまちづくりの目標ってなんだろう？

滝沢市のまちづくりの目標は「**幸福感**を**育む**環境づくり」



チェックポイント

「**みんなが思いやりをもち、幸せに暮らせる地域を全員で作っていく活動(住民自治)を進める**」ことが大切なんだ。それを実現するために市民みんなが地域づくりを進め、行政はそれをサポートしていくという関係を深めていくことで、目標はきっとかなうよ。

第2章 幸福感について

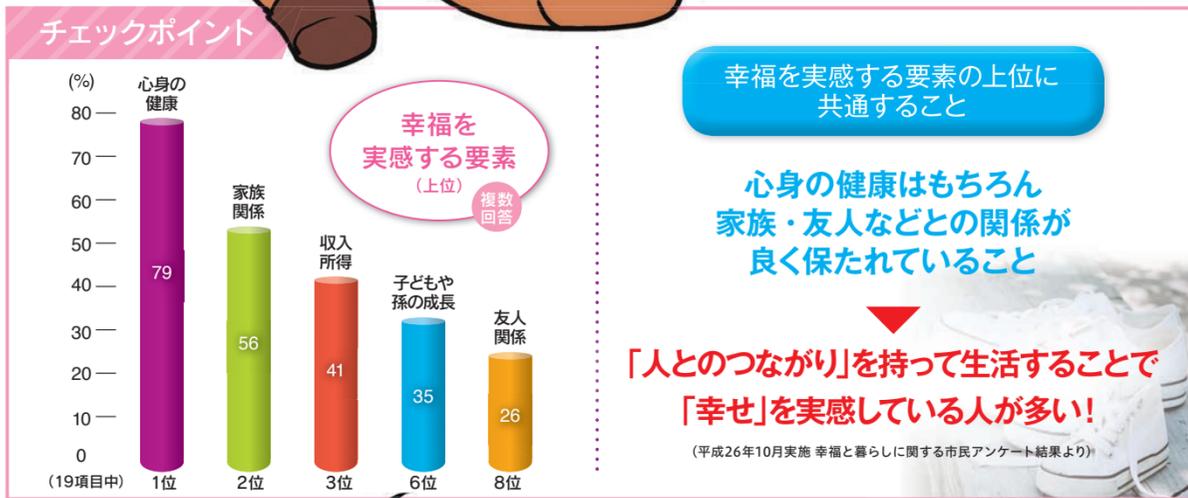
なぜ、今「幸福感」なの？(P7)
人とのつながり(P8)
社会関係資本ってなに？(P9)

第3章 ^{はぐく}育むことについて

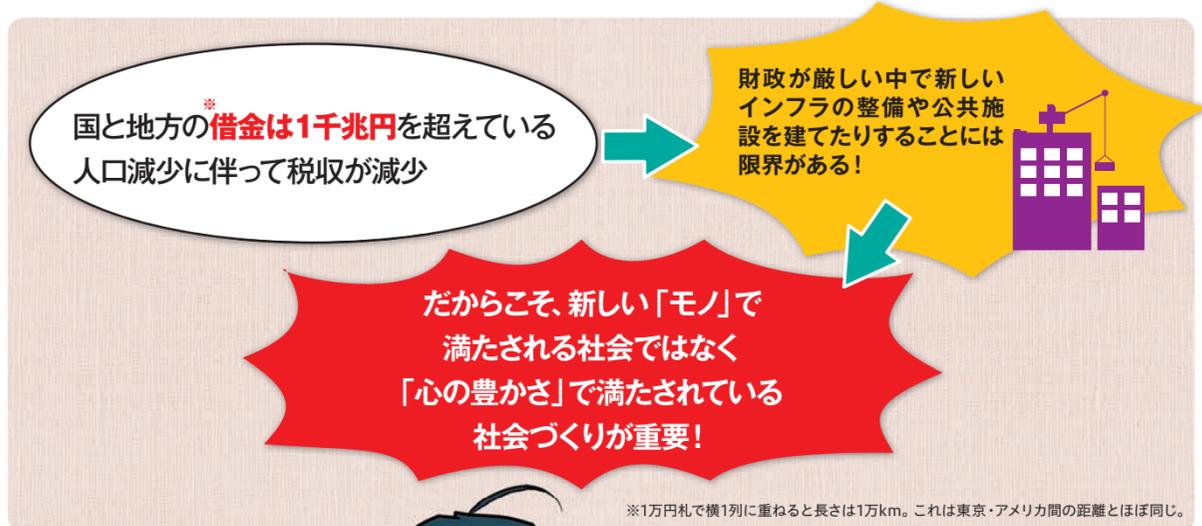
住民自治
幸福実感一覧表とは(P10)
地域別計画

第4章 環境づくりについて

団体自治
暮らしやすさ一覧表とは(P11)
市域全体計画(P12)



※インフラ…インフラストラクチャーの略。福祉向上と経済発展に必要な公共施設をさす。例として学校、道路、鉄道、ガス、電気、電話などがあげられる。



人とのつながり



社会関係資本ってなに？

チェックポイント

社会関係資本とは

社会関係資本は、「人々の信頼関係、結びつき、お互い様の気持ち」でつながった仲間や集団などを表す言葉で、「ソーシャル・キャピタル」とも呼ばれています。社会関係資本を市民が主体となつてつくっていくことで、たくさんのメリットを生むことが期待されています。

社会関係資本をつくることで得られるメリット

- 様々な情報をお互いに得たり与えることができる。
- 地域で行われている取り組みなどを把握して世代間交流を生むことができる。
- 地域での犯罪の防止につながる。
- 災害時の助け合いにつながる。



これからは、たくさんの人と想いを共有しながら「人とのつながり」を深めていくこと。それこそが滝沢市のめざす「幸福感」なんだね！

僕達のまち、滝沢市でしか得ることのできない「幸福感」をみんなで作って、地域も心も豊かにしていこう！

幸福実感一覧表とは



幸福実感一覧表

「幸福実感一覧表」は、アンケートで市民の想いを集めて取りまとめた一覧表です。地域づくりにつながる、それぞれの幸福感を育む市民一人一人の行動をまとめ、それをはかる目安と、そのための行動の例を挙げています。これは、滝沢市がめざす「住民自治日本一の市」へ向けて、市民が主体的に行動し、地域づくりを行うために、市民みんなで取り組む一助となっています。

全世代	世界や全国で活躍する人材を育む滝沢市であること	チャグチャグ馬コが受け継がれていること	岩手山麓に広がる豊かな自然が守られていること	滝沢市の暮らしに安心感と愛着があること	市民が互いに支え合いながら、幸せを実感して暮らせること
象徴指標	芸術文化及びスポーツに関する市特別表彰の件数	チャグチャグ馬コの滝沢市からの参加馬数	地域清掃活動への参加者数	滝沢市に愛着がある人の割合	滝沢市で幸せに暮らしている人の割合
やってみよう	滝沢市で開催される各種大会などへ見物に行く 滝沢市民が出席する各種大会などへ応援に行く 芸術、文化、スポーツなどに自ら取り組んでみる	チャグチャグ馬コを見る チャグチャグ馬コの由来を知る チャグチャグ馬コを県内外の知り合いに紹介する	ゴミを出す量を少なくする 地域の清掃活動に参加する 自然を守る活動などに参加する	滝沢スイカなど、農産物を食べる 災害時の避難場所を確認する 滝沢市に住み続ける	日ごろから健康づくりに取り組む 毎日、明るく、元気に学び、働く 日ごろから家族に感謝して暮らす

実際に幸福一覧表にある行動をしてみよう!

※巻末に幸福実感一覧表があります。

地域別計画

幸福実感一覧表の他にも、市民主体による「幸福感を育む環境づくり」の土台づくりに向けて、「地域別計画」が現在進行中です。

市民が地域で幸せに暮らすために人とのつながり(社会関係資本)を深め、そして住民自治につながる多様な活動が地域で自主的に展開されることにより、幸福感を育む地域環境をつくることができます。

地域別計画

- ・地域の将来像の共有
- ・地域の宝物の発見
- ・地域情報と地域課題の共有
- ・幸福感を育むためにできる市民の行動と活動

幸福実感一覧表による行動をすると…



幸福感を育む地域環境をつくることができます

暮らしやすさ一覧表とは



暮らしやすさ一覧表

8つの視点	視点が描く「めざすまちの姿」
活かす	恵まれた自然環境を身近に感じ、暮らしに活かすまち (市に豊かな自然がたくさん残されているなど)
支えあう	互いに支え合い、人とのふれあいが生活に潤いを与えるまち (みんなで地域の夢の実現のために取り入れることができるなど)
輝く	みんなが健康づくりに取り組み、一人一人が輝きながら、安心して暮らせるまち (心身ともに元気で暮らせるなど)
暮らす	安全で快適な暮らしが実感できるよう、みんなで取り組むまち (交通安全が保たれているなど)
学ぶ	子どもから高齢者まで、夢を抱き、夢に向かって互いに学びあい、成果を活かせるまち (自ら学んだり、取り組める環境があるなど)
働く	雇用環境が充実し、みんなが安心して生き生きと働けるまち (みんなが自分のやりたい仕事ができるなど)
受け継ぐ	次世代に伝統と文化を受け継ぎ、ふるさとに愛着を持てるまち (文化、伝統や芸術に親しむ機会があるなど)
集う	地域と世代を超えて集い、人との関わりに幸せを実感して地域づくりができるまち (地域や世代を超えて自然体がつながっているなど)

ここに載せているのはほんの一部です。市では45の最適化条件という市民にとって、もっと快適に生活するための条件を設けています。滝沢市は人とのつながりによる幸せを目指しているため、モノの豊かさで便利さを追求するために設定しているわけではありません。



まとめ

滝沢市がめざすこと



市役所の取り組み目標

チャグチャグ馬コの入込客数 28,000人を31,000へ	地域活動に参加している人 48.3%を60%へ	自主防災組織訓練参加数 2,625人を6,500人へ
----------------------------------	----------------------------	-------------------------------

暮らしやすさ一覧表より

市域全体計画

こうして目に見える数値として市民に公開することで、実際の達成状況を分かりやすく伝えることができます。このほかにも市では『市域全体計画』という計画に取り組んでいます。10ページで説明した『地域別計画』の取り組みを支えるために行政が取り組む行動計画も含まれています。主に人とのつながりを意識して作られています。市民の笑顔を生む取り組みを考えたり、市民が触れ合える場を提供するなど、市の理想の姿を目指しています。

例

- 将来の滝沢を担う若者の育成** 若者が自分の地域に興味をもち幅広い世代が地域とかわるることになり人とのつながりが生まれる。
- 伝統文化支援** 伝統文化を守っていくために後継者を育て未来へつなげる。
例)川前神楽、滝沢駒踊りなど

幸福実感一覽表

年代(歳)	場面	喜び・楽しさ	成長・学び	生活環境	安全・安心	人とのふれあい
0歳	象徴世代	ワクワクする(W)	イキイキする(L)	サフヤカ(S)	ホッとする(H)	きずな
	すこやかか世代	(子どもに)みんなが笑顔で接してくれていること	(子どもに)良い食習慣が身に付いていること	(子どもが)身近に体を動かして遊べる機会があること	親以外に、(子どもの)世話をしてくれる人がいること	(子どもが)大切に見守られていること
	象徴指標	子どもと一緒に過ごす時間(1週間)	家族一緒に食事をする回数(1週間)	子どもが屋外で過ごす時間(1週間)	子どもを安心して預けられる相手がいる親の割合	子どもが大切に育てられていると感じている人の割合
	目標値	(平成30年度)46時間20分 (平成34年度)47時間30分	(基準値)10.12回 (平成30年度)12.00回 (平成34年度)14.00回	(基準値)13時間06分 (平成30年度)14時間00分 (平成34年度)15時間00分	(基準値)52.6% (平成30年度)58.0% (平成34年度)65.0%	(基準値)75.3% (平成30年度)77.0% (平成34年度)80.0%
	やってみよう	親などが、子どもに読み聞かせをする 親などが、1日1回子どもを抱きしめる 大人は、子ども目の高さで、笑顔で話しかける	親などが、季節の食材を取り入れた食事を調べる 家族一緒に笑顔で食事をする 家族が、家庭菜園やプランター菜園に挑戦し、子どもと一緒に収穫する	親などが、子どもと一緒に屋外で過ごす時間を調べる 親などが、子育て世代が気軽に集まれる機会を地域でつくる 大人が公園などで子どもが安全に遊べるように気を配る	親などが、子どもと共に、近所の人との挨拶を大切にす 親などが、子育てを支援する「ファミリーサポートセンター」や「子育て支援センター」を利用する 大人が、子どもが気軽に行き来できるように近所付き合いを心掛ける	親などが、子育て世代であることを知ってもらう 親などが、家族みんなで、子どもとふれあう時間をもち 親などが、子育ての輪を地域でつくる
6歳	象徴世代	喜び・楽しさ	成長・学び	生活環境	安全・安心	人とのふれあい
	すこやかか世代	(子どもが)楽しい学校生活を過ごせること	(子どもが)夢中になって取り組めることがあること	地域の皆さんに(子どもが)見守られていること	(子どもが)悩みを相談できる相手や機会を持っていること	(子どもが)積極的に地域に関わっていること
	象徴指標	仲の良い友だちの数	子どもが夢中になって取り組めることがある割合	子どもが安全に通学できると感じている人の割合	子どもが悩みを相談できる相手がいると感じている人の割合	(子どもが)地域行事に参加した回数
	目標値	(基準値)6.06人 (平成30年度)8.00人 (平成34年度)10.00人	(基準値)49.9% (平成30年度)58.0% (平成34年度)67.0%	(基準値)46.3% (平成30年度)50.0% (平成34年度)55.0%	(基準値)52.6% (平成30年度)62.0% (平成34年度)70.0%	(基準値)2.18回 (平成30年度)3.00回 (平成34年度)4.00回
	やってみよう	親などは、子どもの友だちの名前を覚える (子どもが)子ども会や育成会の行事に参加する	(子どもが)好きな勉強やスポーツについて、親などに話してみる 親などが、運動会や学習発表会、文化祭などを観に行く	(子どもが)毎朝、スクーラカードの習字に挑戦する (子どもが)地域のお祭りや行事へ参加する 大人が資源回収などの子どもたちの地域活動に協力する	子どもが悩みを相談できる相手や機会を持っていること 子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合	(子どもが)近所に近所の人に挨拶する (子どもが)地域の行事に友達を誘って参加する (子どもが)地域に感謝される活動をしていること
18歳	象徴世代	喜び・楽しさ	成長・学び	生活環境	安全・安心	人とのふれあい
	すこやかか世代	(子どもが)多くの人とのふれあいの機会があり、人間関係が良好であること	身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会があること	地域の皆さんと交流の機会があること	子育てに関わる集まりに参加できる機会が多いこと	地域に仲間がいること
	象徴指標	多くの人とのふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合	身に付けた知識や技術を仕事や趣味の場で活かせる機会がある割合	地域の皆さんと交流の機会がある割合	子育てに関わる集まりに参加できる機会が多いこと	地域に仲間がいること
	目標値	(基準値)43.3% (平成30年度)50.0% (平成34年度)55.0%	(基準値)39.5% (平成30年度)45.0% (平成34年度)50.0%	(基準値)1.84回 (平成30年度)3.00回 (平成34年度)4.00回	(基準値)50.0% (平成30年度)60.0% (平成34年度)70.0%	(基準値)62.9% (平成30年度)68.0% (平成34年度)75.0%
	やってみよう	相手を気遣う気持ちを持つ 時間を上手に使って、自分が自由に使える時間を確保する 近所に、いつでも気軽に集える場所を探す・つくる	学校や職場などで、身に付けた知識や技術を生活に活かす 学校や仕事などで、身に付けた知識や技術を地域に役立てる	保育園、幼稚園、小学校などの行事へ参加している人の割合 保育園や幼稚園の行事に積極的に参加する 両親や祖父母、近所の人と遊ぶ (子どもが)友だちと一緒に通学する 親などが、子どもの悩みを知る・学ぶ機会を地域で設ける	保育園、幼稚園、小学校などの行事へ参加している人の割合 保育園や幼稚園の行事に積極的に参加する 両親や祖父母、近所の人と遊ぶ (子どもが)友だちと一緒に通学する 親などが、子どもの悩みを知る・学ぶ機会を地域で設ける	保育園、幼稚園、小学校などの行事へ参加している人の割合 保育園や幼稚園の行事に積極的に参加する 両親や祖父母、近所の人と遊ぶ (子どもが)友だちと一緒に通学する 親などが、子どもの悩みを知る・学ぶ機会を地域で設ける
50歳	象徴世代	喜び・楽しさ	成長・学び	生活環境	安全・安心	人とのふれあい
	すこやかか世代	(子どもが)情報時代に適したマラル、スキルを学び、活かす機会があること	広報やインターネットなどで、地域の情報を収集・発信している人の割合	子どもが安全に通学できると感じている人の割合	家族の支えのおかげで仕事に専念できていると感じている人の割合	子どもと一緒に地域活動をした回数
	象徴指標	子どもが安全に通学できると感じている人の割合	広報やインターネットなどで、地域の情報を収集・発信している人の割合	子どもが安全に通学できると感じている人の割合	家族の支えのおかげで仕事に専念できていると感じている人の割合	子どもと一緒に地域活動をした回数
	目標値	(基準値)26時間00分 (平成30年度)27時間00分 (平成34年度)28時間00分	(基準値)23.2% (平成30年度)30.0% (平成34年度)40.0%	(基準値)2.03回 (平成30年度)3.00回 (平成34年度)4.00回	(基準値)76.6% (平成30年度)78.0% (平成34年度)80.0%	(基準値)1.38回 (平成30年度)3.00回 (平成34年度)4.00回
	やってみよう	毎日、子どもと会話をする 子どもと一緒に買い物に行く 小中学校の行事に積極的に参加する	子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合	子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合	子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合 子どもが安全に通学できると感じている人の割合	子どもと一緒に地域活動をした回数 子どもと一緒に地域活動をした回数 子どもと一緒に地域活動をした回数
65歳	象徴世代	喜び・楽しさ	成長・学び	生活環境	安全・安心	人とのふれあい
	すこやかか世代	心身ともに元気になる趣味や活動を通して、地域に役立つ機会があること	自ら学び、趣味や地域活動に積極的に取り組める機会があること	豊かな自然を活かして、リフレッシュできること	老後の生活設計が描けること	地域活動などに無理なく参加できる機会があること
	象徴指標	心身ともに元気になる趣味や活動を通して、地域に役立つ機会がある割合	自ら学び、趣味や地域活動に積極的に取り組める機会がある割合	豊かな自然を活かして、リフレッシュできる割合	老後の生活設計が描ける割合	地域活動などに無理なく参加できる割合
	目標値	(基準値)48.3% (平成30年度)52.0% (平成34年度)60.0%	(基準値)15.7% (平成30年度)20.0% (平成34年度)25.0%	(基準値)47.9% (平成30年度)54.0% (平成34年度)60.0%	(基準値)17.8% (平成30年度)20.0% (平成34年度)25.0%	(基準値)34.6% (平成30年度)40.0% (平成34年度)45.0%
	やってみよう	スクーラカードに参加する 自治会活動などの地域活動に参加する 子ども会などを支援し、地域の子どもの顔を覚えてもらう	スクーラカードに参加する 自治会活動などの地域活動に参加する 子ども会などを支援し、地域の子どもの顔を覚えてもらう	スクーラカードに参加する 自治会活動などの地域活動に参加する 子ども会などを支援し、地域の子どもの顔を覚えてもらう	スクーラカードに参加する 自治会活動などの地域活動に参加する 子ども会などを支援し、地域の子どもの顔を覚えてもらう	スクーラカードに参加する 自治会活動などの地域活動に参加する 子ども会などを支援し、地域の子どもの顔を覚えてもらう

年代(歳)	場面	喜び・楽しさ	成長・学び	生活環境	安全・安心	人とのふれあい	
65歳	象徴世代	世界や全国で活躍する人材を育む滝沢市であること	チャグチャグ馬コが受け継がれていること	岩手山麓に広がる豊かな自然が守られていること	滝沢市の暮らしに安心感と愛着があること	市民が互いに支え合いながら、幸せを実感して暮らせること	
	象徴指標	世界や全国で活躍する人材を育む滝沢市である割合	チャグチャグ馬コが受け継がれている割合	岩手山麓に広がる豊かな自然が守られている割合	滝沢市の暮らしに安心感と愛着がある割合	市民が互いに支え合いながら、幸せを実感して暮らせる割合	
	目標値	(基準値)25件 (平成30年度)37件 (平成34年度)50件	(基準値)38頭 (平成30年度)39頭 (平成34年度)40頭	(基準値)19,971人 (平成30年度)22,000人 (平成34年度)24,000人	(基準値)74.2% (平成30年度)77.0% (平成34年度)80.0%	(基準値)61.0% (平成30年度)68.0% (平成34年度)75.0%	(基準値)75.3% (平成30年度)77.0% (平成34年度)80.0%
	やってみよう	滝沢市で開催される各種大会などへ見物に行く 滝沢市民が出場する各種大会などへ応援に行く 芸術、文化、スポーツなどに自ら取り組んでみる	チャグチャグ馬コを見る チャグチャグ馬コの由来を知る チャグチャグ馬コを県内外の知り合いに紹介する	滝沢市に出す量を少なくする 地域の清掃活動に参加する 自然を守る活動などに参加する	緊急時の連絡先を分るるに掲示しておく(救急医療情報キットなど) 地域の自主防災組織が行う防災訓練に参加する 地域活動を通して、ひとり暮らしの世帯を把握する	緊急時の連絡先を分るるに掲示しておく(救急医療情報キットなど) 地域の自主防災組織が行う防災訓練に参加する 地域活動を通して、ひとり暮らしの世帯を把握する	緊急時の連絡先を分るるに掲示しておく(救急医療情報キットなど) 地域の自主防災組織が行う防災訓練に参加する 地域活動を通して、ひとり暮らしの世帯を把握する

滝沢市をイメージしよう!

1 熊が1年に**27頭**出没しています。

2 自然がとても豊かです。面積の**4割**が農業・林業に活用されています。

3 市民一人あたりの所得は**234万2,742円**です。



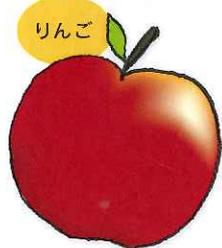
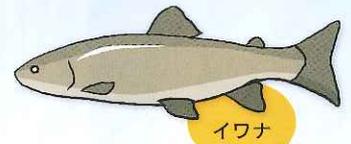
岩手山
標高2,038m

もし、滝沢市が100人のまちだったら

3 転入転出口
1年間に**5人**が滝沢市に引っ越し
てきて、**5人**が出ていきました。

1 男女別人口
100人のうち、**49人**が男性で、**51人**が女性です。

2 年齢別人口
100人のうち、**20人**が子ども(20歳未満)で、**60人**が大人(20~64歳)で、**20人**がお年寄り(65歳以上)です。



4 出生数、死亡数
1年間に**1人**が生まれ、**1人**が亡くなりました。

5 今は100人のまちですが
10年前は**96人**、20年前は**76人**、
30年前は**56人**、40年前は**27人**、
50年前は**23人**でした。
8年後は**103人**を目指しています。



チェック! スマートフォンのアプリで
チャグまる君が滝沢市を紹介!

滝沢NAVIチャグまる

検索

このデータは平成26年度のものを参考に作成しております。

編集後記



滝沢市のみなさん、こんにちは! 私たちは岩手県立大学総合政策学部の田島ゼミに所属する学生です。このたび、滝沢市の第1次総合計画基本構想のパムフレットを作製することで、滝沢市の取り組みに携われたことを嬉しく思います。

作製にあたり、私たち自身が総合計画の内容を理解し、わかりやすくまとめることに苦戦しながらも、マンガや写真を使うことで中学生にもわかりやすいものになるよう常に意識しました。また、滝沢市の中学生や市民パートナー会議のみなさんからも意見をいただくことで、無事完成させることができました。

このパンフレットを作製するにあたり協力してくださったみなさまには、大変感謝しております。滝沢市民のみなさんが、「人とのつながり」を再認識していただければ幸いです。

田島平伸、赤坂光、伊藤真優、小山石真里奈、今田彩幸、佐藤眞子、知本諒子

協力：滝沢市立滝沢第二中学校生徒会及び滝沢市立滝沢南中学校生徒会の皆様・次期総合計画策定市民パートナー会議の皆様



第1次滝沢市総合計画基本構想パムフレット

制作 岩手県立大学/滝沢市役所 イラスト制作 株式会社ぴーぶる

発行 滝沢市役所 019-684-2111(代表) 2015年3月